

★ ESTAC 3 (第3回ヨーロッパ熱分析および カロリメトリーシンポジウム)

本誌 Vol. 10, No. 3 (1983) に紹介したとおり、標記シンポジウムが1984年9月9日から15日まで、スイスの Interlaken で開催される。第2回サーキュラーおよび最終登録用紙を必要な方は学会事務局に連絡されたい。なお登録期限は6月30日である。

★ Status Report on Thermal Analysis in India

標記報告書がインド熱分析学会より送られてきたので、学会事務局に保管してある。熱分析を主としたインドにおける熱測定について、研究者名、熱測定機器、研究テーマ、学位論文題目などが、大学および研究機関ごとに網羅しており、インドにおける熱測定の現状を知るに有用である。
(東工大工材研 斎藤安俊)

★編集委員会より

1) 本州では比較的温暖な方の大阪でも、この冬の寒さは格別のものでした。皆様、お元気でいらっしゃいますか？ さて、通常、奇数巻第1号は新旧編集委員会の共同作品となるものですが、第2号からは新編集委員会の独自性が強くなります。本号では、わが国で初のETAによる研究を始められた石井忠雄氏と新技術の一つであるアルミニウム新精練法の開発に貢献された横川晴美氏の解説を掲載しました。第3号には小特集「応用熱測定」、更に第4号には熱測定討論会 第20回記念小特集「熱測定への期待と提言」を予定しています。御期待下さい。

2) 本誌の原著学術論文として総合論文が新設された(本誌 10, 164 (1983)) ことをご存じですか？ 前号47頁に書きましたが、本会会員の熱測定関係研究論文の投稿誌は広い範囲に分布しています。これは本学会が熱測定という研究方法論に基く学会であり、しかも熱測定の特徴である普遍性によって研究対象が極めて多岐に渉るためですが、その結果、重要な研究成果が本誌に反映さ

れることが必ずしも多くないのは残念なことです。総合論文はこの現状をいくらかでも改善するために新設したもので、他誌に既発表のいくつかの成果を総合し、新しい知見や他誌には書かなかったノウハウを付け加えて、本誌上で改めて紹介していただくのが目的です。投稿に関する詳細は、本誌 10, 166 (1983) 以降の投稿規定、投稿手引にあります。奮って御投稿下さい。

(崎山 稔)

研究の手法は、手法自身の考案、研究から始まり、研究手段として各分野に応用され、普及すると共に、最後に、生産現場での試験手段として定着していく。熱測定も、その例にもれず、同じような発展、普及の経過をたどっているようである。この傾向を反映して、熱測定学会の中に応用熱測定研究グループがつけられてから、4年になるが、昨年1号から会誌に応用熱測定の頁を設け、事例を紹介してきた。次号には、その小特集が企画され10件以上の事例が紹介される。毎号の事例紹介はその後にも続ける予定であるので、興味深い事例を編集委員あて御紹介いただければ、幸いである。
(小沢丈夫)

『熱測定』編集委員会

(委員長) 崎山 稔

(編集委員) 稲場秀明, 児玉美智子, 高木定夫, 高橋克忠, 十時 稔, 村上幸夫

(地域編集委員)

板垣乙未男, 小沢丈夫, 草野一仁, 斎藤安俊, 丸田道男, 横川敏雄

熱測定 Vol. 11, No. 2, 1984 昭和59年4月20日印刷
昭和52年5月27日 第4種 昭和59年4月25日発行
郵便物(学術刊行物)認可

編集兼 日本熱測定学会 松本直史
発行人

〒113 東京都文京区湯島1-5-31 第一金森ビル内
電話 03-815-3988 振替 東京9-110303